

日本言語政策学会第 11 回大会

予稿集

2009 年 6 月 13 日・14 日

於 昭和女子大学

日本言語政策学会

日本言語政策学会第11回大会

大会テーマ：移民社会と言語政策

日時：2009年6月13日（土）13:00-17:30

6月14日（日）10:00-17:30

会場：昭和女子大学（東京都世田谷区）

参加費：会員（一般1000円、学生500円）、非会員（一般3500円、学生2000円）

* 予稿集代500円込み

6月13日（土）

12:00～ 受付開始

【80年館6階 オーロラホール】

総合司会 李守（昭和女子大学）

13:00～13:15 開会の辞 田中慎也（日本言語政策学会会長）

会場校挨拶 金子朝子（昭和女子大学副学長）

13:15～14:15 基調講演

「移民社会と子どものための言語政策－カナダ・米国の事例を踏まえて－」

講演者 中島和子（トロント大学名誉教授）

14:30～17:30 シンポジウム

「共生に向けた言語政策の将来的方向性：地域からの発信」

パネリスト 加藤庸子（NPO 浜松日本語・日本文化研究会代表）

猿橋順子（青山学院大学）

杉野俊子（防衛大学校、兼司会）

成瀬敏夫（エスココーラ・ブラジル校長）

18:00～19:30 懇親会（人見記念講堂地下「プレリユード」 会費3,000円）

6月14日(日)

9:00～ 受付

【80年館5階5S31教室】

10:00～11:30 事例報告 司会 仲矢信介(東京国際大学)

(1)アクター構造から見る、孔子学院「ソフト・パワー実現手段」としての役割検証―

李 炅澤(筑波大学・院生)

(2)韓国の言語・教育政策と日本語の継承

―在韓日本人妻と日韓国際結婚家庭を中心として―

花井理香(関西学院大学・院生)

(3)グローバル・ローカルな視点からみた対外言語教育機関

―タイにおける対外言語教育機関を中心に―

山口雅代(名古屋外国語大学・院生)

11:30～12:00 研究報告 司会 杉野俊子(防衛大学校)

「日本人」の英語使用・英語学習経験の規定要因

寺沢拓敬(東京大学・院生)

【80年館5階5S01教室】

10:00～11:00 研究発表 司会 細川英雄(早稲田大学)

(1)国際化施策における書き言葉使用の管理

金子信子(千葉大学・院生)

(2)公共性の高い文章における日本語表記の在り方―仮名で書くか、漢字で書くか―

斎藤達哉(国立国語研究所)

11:00～11:30 事例報告 司会 村岡英裕(千葉大学)

地方自治体における「やさしい日本語」の取り組み:

アンケート調査を通じて大阪府内三つの市の現状をみる

ウーワイシェン(大阪大学・院生)

【80年館5階5S32教室】

10:00～11:30 パネル発表

中国少数民族における言語維持・言語継承の諸問題―モンゴル族と朝鮮族のばあい―

佐藤喜之、フフバートル、李守(昭和女子大学)

12:00～13:00 休憩(昼食)

【80年館6階オーロラホール】

13:00～13:20 総会

13:30～14:30 基調講演

「言語政策の可能性—今しなければならないこと—」

講演者 西原鈴子(元日本語教育学会会長)

司会 宮崎里司(早稲田大学)

14:30～17:30 シンポジウム

「緊急提言:21世紀型日本の言語政策に求めるもの」

パネリスト 尾崎明人(日本語教育学会会長)

木村哲也(杏林大学)

中山暁雄(国際移住機関(IOM)駐日代表)

田中慎也(日本言語政策学会会長)

司会 宮崎里司(早稲田大学)

17:30～ 閉会の辞 橘 好碩(國學院大学、日本言語政策学会副会長)

目次

大会プログラム 1

【事例報告・研究報告・研究発表】

アクター構造から見る、孔子学院
ーソフト・パワー実現手段としての役割検証ー 8

韓国の言語・教育政策と日本語の継承
ー在韓日本人妻と日韓国際結婚家庭を中心としてー 11

グローバル・ローカルな視点からみた対外言語教育機関
ータイにおける対外言語教育機関を中心にー 14

「日本人」の英語使用・英語学習経験の規定要因 17

国際化施策における書き言葉使用の管理 20

公共性の高い文章における日本語表記の在り方
ー仮名で書くか、漢字で書くかー 23

地方自治体における「やさしい日本語」の取組み:
アンケート調査を通じて大阪府内三つの市の現状をみる 26

【パネル発表】

中国少数民族における言語維持・言語継承の諸問題
ーモンゴル族と朝鮮族のばあいー 29

【講演】

基調講演

- 「移民社会と子どものための言語政策
ーカナダ・米国の事例を踏まえてー」 40
中島和子(トロント大学名誉教授)
- 「言語政策の可能性ー今しなければならないことー」 43
西原鈴子(元日本語教育学会会長)

【シンポジウム】

「共生に向けた言語政策の将来的方向性：地域からの発信」

- 浜松のブラジル人学校の現状と問題点 49
成瀬敏夫 T Naruse (エスコーラ・ブラジル校長)
- 浜松の日本語教育の現状と将来について～NPO 活動の経験から～ 50
加藤庸子 (NPO 法人浜松日本語・日本文化研究会)
- 日系・出稼ぎ・外国人という概念を地域住民の意識から考える 52
杉野俊子 (防衛大学校)
- 共生に向けた言語政策の将来的方向性:地域からの発信
～言語政策研究者の貢献可能性:川崎の取り組みから～ 53
猿橋順子 (青山学院大学)

「緊急提言：21世紀型日本の言語政策に求めるもの」

- 地域日本語教育の体制整備に向けて 55
尾崎明人 (名古屋外国語大学)
- 日本の「社会基盤づくり」としての日本語教育 57
木村哲也 (杏林大学)

移民との共生と日本語 58
中山暁雄（国際移住機関駐日代表）

21世紀型日本の言語政策に求めるもの 60
田中慎也（日本言語政策学会会長）